

令和5年度 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、令和6年2月22日に「令和5年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和6年6月1日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

今井 昌人（有限会社O'Sフード所属）

社本 太郎（株式会社モンシエル 代表取締役社長）

田中 裕貴（株式会社さんぼう 企画営業第2グループリーダー）

田中 健太（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 卒業生）

中尾 聡（学校法人 大橋学園 副理事長）

星野 正純（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校長）

木下 光（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 副校長）

鈴木 博明（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 学科長）

後藤 一宏（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長）

溝田 智也（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務長）

オブザーバー

中村 真子（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 入学相談室）

合計：11名

2. 令和5年度 自己評価（学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	評価：ほぼ適切である。 課題：学生の他人を思いやる気持ちを育てる難しさ。業界の求める人物像を学生・保護者が理解しているか。 改善策：教員研修の実施、学校生活や行事等を通じ、学生同士・教員と学生の関りをより強める。業界の方々から現場の現状を細かく確認し、発信を行う。
(2) 学校運営	評価：ほぼ適切である。 課題：人材確保、そして新しい人材を育てる環境の整備が必要。少子化による充足不足、時代に合わせた教育の必要性。全教職員が理解しておくべき事項が不透明なときがある。 改善策：給与の改善、教員研修等による指導者の育成や、時代に合ったデジタル教材の導入。全教職員へできうる限りの情報公開と公開している場所についても周知徹底。
(3) 教育活動	評価：ほぼ適切である。 課題：学科毎、教員毎の指導差があり、クラスによってルールややり方が違うことが学生の不満を生むことがある。また、非常勤講師と学生にも距離がある。 改善策：講習会の参加や教員研修により個々のスキルアップを図り、学科によらず情報共有、

	<p>コミュニケーションをよりとるようにする。非常勤講師についても単発ではなく3回程度来ていただくようにすることで学生とのコミュニケーションを図る。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：退学率や、就職後も離職率について把握しフォローする必要がある。学修した内容を活かせる将来の選択ができない学生もいる。</p> <p>改善策：入学時より学習意欲、目的を明確にし、長期的な将来設計を踏まえた就職指導を行うことでミスマッチを防ぐ。同窓会を通じて卒業生の追跡を行うことで卒業後も学生のフォローを行う。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：コミュニケーションをとる時間を持つことが難しく、生赤津環境までかかわることができない。また、学生の学外（家庭内など）の相談にどこまで干渉するか難しい。高等課程において上級学校（専門課程）への意識が薄い。</p> <p>改善策：定期的な面談を設け、様々な事象への早期発見・対応を目指す。日頃の授業の中から専門課程で実際に行われていること等織り交ぜて話すことで上級学校への理解・意識を深める。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：授業に必要な器具の不足や、老朽化による機械の故障が多く、教室も3学科に対して不足している。職員の防災意識が低い。</p> <p>改善策：施設拡張を検討と、3学科互いに連携してあるものを使用する。器具や設備に関して必要量を事前に把握し、普段から適切な使用方法を徹底、故障・破損は早期発見・対応する。委員会活動・クラスを通じて防災講和を行うことで意識づける。</p>
(7) 学生の受け入れ 募集	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：大学・短大との違いや職業教育の必要性をよりアピールする必要がある。教員・事務の連携とるために、よりコミュニケーションをとる必要がある。</p> <p>改善策：東校舎にも事務員を配置することで、教員・事務間、校舎間の情報交換を常に行い、共有することで全員が広報活動できるようにする。また幅広い周知のためにSNSを活用する。適正定員数の確保に努める。</p>
(8) 財務	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：財務情報を確認する方法がHPのみと限られており、教職員の周知度が低い。節約への意識が低い。</p> <p>改善策：年度末ごろにまず学内で財務状況を共有するなど、必ず目を通す環境を作る。こまめな節電、消耗品の無駄をなくすよう教職員だけでなく学生へも意識づけを行う。</p>
(9) 法令等の遵守	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：個人情報保護へのさらなる意識づけが必要。</p> <p>改善策：机上に個人情報を放置しないこと等今後も徹底していく。</p>
(10) 社会貢献・ 地域貢献	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：開講座や教育訓練（公共職業訓練等含む）を受託することや、対外的な販売活動・ボランティアに積極的に取り組む。</p> <p>改善策：要望を確認し、必要であれば、実施できるような計画の立案を積極的に行う。</p> <p>学生のボランティアに対する意識向上を図り、周辺のごみ拾いだけでなく、お菓子教室や地元とコラボした商品など新たな取組も考える。</p>

3. 令和5年度 学校関係者評価（自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	ほぼ適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「生徒・学生相談に関する支援体制は整備されているか」	ほぼ適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	ほぼ適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「生徒・学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	ほぼ適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	生徒・学生増に伴い施設設備が少し手狭になってきている状態があり、建物スペースを上手く使用するなど工夫し、生徒・学生がしっかりと心を落ち着かせられるよう場所の確保に努める。毎年職員の入替わりがある中で、やはり人材の確保と定着、そしてスキルアップを図っていくことが教育活動の根幹となる。コロナ禍にあって卒業生の状況把握ができていない課題があり、同窓会やSNS等を活用し情報収集に努める。